



国民の森林・国有林

中部森林管理局

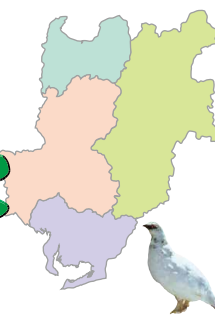
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



## 迎春

白山「大倉尾根より北アルプスを望む」(写真提供：飛騨署 日置順昭)

### 主な項目

- 鈴木局長年頭所感 ..... P 2
- 各地からのたより ..... P 3~5
- シリーズ「森林官からの便り」 ..... P 5
- 2013年 主な出来事 ..... P 6~8
- シリーズ「ご当地自慢」 ..... P 9
- 平成26・27年度 国有林モニター募集 ..... P 10



新年明けましておめでとうございます。  
読者の皆様におかれましては、ご家族とともに、よき新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、当局の業務運営に当たり、それぞれの立場でご協力をいただいていることに対しても、厚く御礼を申し上げます。

昨年四月一日に、昭和二十二年の林政統一以来、約六十五年間続いた特別会計に終止符を打ち、一般会計として新たなスタートを切りました。かつて国鉄や郵政とともに三公社五現業といわれていましたが、次々と民営化され、結果的に一般会計に移行したのは国有林だけとなり

ました。

これまで、分割民営化や一部独立法人化など様々な議論がなされてきましたが、最終的には、森林の持つ公益的機能の維持増進等の必要性から「国が直接管理することが望ましい」と国民の皆様が判断された結果と考えています。

そのスタートの年の取組を振り返って見ますと、国有林は、一般会計として、公益重視の管理経営を一層推進しつつ、森林・林業の再生や地域振興といった政策実現のために取り組んでいます。

具体的には、木曽ヒノキをはじめとする「木曽谷の温帯性針葉樹林」を伝統建築物の維持・保存などと調整しつつ保全する取組、市町村森林整

備計画の策定を支援する地域森林総合監理士(通称:「フォレスト」)の育成、木材価格急変時の「国有林材の供給調整」の取組、「コンテナ苗」を活用した生産・造林一貫作業システム

の普及、高齢級で良質な人工ヒノキのブランド化を目的とした「(高)国木曾ひのき」(読み方:マルコウマルコク キソヒノキ)の販売、「型枠合板の国産材化」の取組等を行っています。

また、当局では、過去の貴重な記録を未来に残すことも重要と考えています。その一環として、現在、森林鉄道の記録を集めており、書庫の中で埃をかぶっている資料をひもどくとともに、実際に森林鉄道に関わった皆様の貴重な体験談や写真を

提供していただき、後世に残したいと考えています。

今年是一般会計化二年目を迎え、より一層、他の行政機関等とも連携しつつ、地域の森林・林業をリードしていく存在となる必要があると考えています。そのためには、国有林が「今何をして、何をしようとしているのか」地域の皆様に理解していただく取組も重要と考えており、新聞、テレビ等への積極的なプレスを行っていくこととしています。

国有林の使命を達成するため、管内の地方公共団体、関連する業界とも連携しながら、公益重視の管理経営の一層の推進はもとより、我が国の森林・林業の再生や地域の活性化など、国有林野事業に求められる役割の発揮に精一杯努めていく考えですので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、皆様方の今年一年間のご多幸とご健勝を祈念しまして、年頭のご挨拶といたします。

# 今年の干支は甲午



今年の干支は午年です。十二支はさらに細かくいうと「甲午」で、「きのえうま・こうご」と読みます。馬は、人間との意志の通う家畜として、昔から親しまれてきました。

こうした馬との密接な間柄を反映して、馬についてのことわざや漢字は豊富です。

「人に添うてみよ、馬には乗ってみよ」。人とは、付き合ってみなければ、その人のことはわからないもので、外見だけで、その人(馬)のことを判断してはいけないというたとえです。人とは生活を一緒にしたり、仕事をしたりして、はじめて、相手の性格や自分との相性などがわかり、また、馬には、乗ってみないと、その馬の癖や、乗り心地なども分からない。どんなことでも、経験してみないと本当のことは分からないので、とにかく、やってみる、という教えです。



木曾馬 (長野県木曾町開田高原にて)

午年生まれの有名人をあげると一九四二年・プロゴルファーの青木功、一九五四年・俳優の石田純一、一九六六年・俳優の江角マキコ、一九七八年・マラソンの野口みずき、一九九〇年・フィギュアスケートの浅田真央といった方々がいます。

過去に起きた午年の出来事を紹介すると、一五八二年・清洲会議、一九六六年・ビートルズ来日、一九七八年・成田空港開港、一九九〇年・東西ドイツ統一、二〇〇二年・冬季ソルトレイクシティオリンピック・サッカーワールドカップ日韓大会などがありました。



花が馬の顔に似ているので駒草

## 各地からのたより

### 国民の森林づくり推進功労者に 林野庁長官感謝状を贈呈

国有林において、国民参加による森林づくりや森林環境保護、国産材利用推進などの活動に取り組んでおられる個人や団体等に対して林野庁長官が感謝状を贈呈するもので、今年度は、全国五団体が当該功労者として選定され、中部局管内

で二団体が功労者に選定されました。

### 「恵那山みどりの会」へ贈呈

【東濃署】十二月十一日、東濃森林管理署において国民の森林づくり推進功労者への感謝状の伝達式が行われました。

東濃署管内では、岐阜県からは初めて、中津川市を拠点に活動するNPO法人「恵那山みどりの会」が選ばれました。

同会は、平成十五年に東濃署と協定を結び、中津川市神坂(みさか)の湯舟沢(ゆふねざわ) 国有林に設定された「大曾川の森(おおひのもり)」において、大曾川の上流と下流の市民による森づくり体験活動を展開してこられました。上流と下流の住民が川を通して結びつくことにより、上流の森林の手入れが行き届けば、災害を防ぎ、豊かで美味しい水を下流に送りつづけることができる。年二回程度、間伐等の活動を継続して行っており、今回、この功労に対して感謝状が



間島署長から感謝状を藤井理事長へ贈呈

贈呈されたものです。

間島署長から「大曾川の上下流住民が連携して取り組む森林整備は大変意義深く、これまでの活動に改めて感謝いたします。引き続き、地域の森林づくりにご活躍いただきますようお願いいたします。」と式辞を述べて、同会に感謝状を贈りました。また、来賓の中津川市鈴木農林部長から「中津川市として、今後も、上下流を結ぶ森づくりを支援していきたい。」と祝辞をいただきました。



間島署長(左) 藤井理事長(中) 河内森づくり部長(右)

恵那山みどりの会の藤井理事長からは「これまでの活動が評価され表彰をいただきました。これに恥じないよう今後も森林づくりに頑張っていきます。」と受賞の挨拶がありました。

東濃署は、これからも地域と連携した森づくりを推進していきたいと考えています。

「中日森友隊」へ贈呈

「木曾署」十二月十日に木曾森林管理署において国民の森林づくり推進功労者への感謝状伝達式が行われました。

昭和五十九年の王滝村長野県西部地震発生から本年で三十年となりますが、土石流で荒廃した地域は、下流の都市住民や高校生なども参加して復旧が進められ、今では、樹木が定着し緑に覆われており、地域住民に大きな安心感を与えています。



贈呈後の記念写真

この被災地の復旧活動に参加してきた団体のうち、「中日森友隊」(隊長安井誠一)が、林野庁長官から「国民の森づく

り」推進功労者として感謝状が贈呈されることになり、木曾署において安井隊長に手渡されました。



活動の様子

中日森友隊は、中日新聞社の百十周年記念事業として、森林、自然について学び、遊び、楽しみながら緑を育て、森に親しんでいくことを目的に平成八年に結成され、都会の人たちを募って、王滝村で毎年春と秋の二回の除伐や間伐などを行うほか、岐阜県、愛知県内でも「国民の森」や地元村有林などで下刈り、枝打ち、除伐、間伐等の保育作業や森林散策等緑に親しむイベントを開催しています。

感謝状の伝達式には、署職員、木曾森林環境保全ふれあい推進センターの近藤

所長も臨席し、職員を代表して高嶋署長からの「長野県西部地震からの復旧に対し長年の貢献に感謝します」とのお礼の言葉に、安井隊長から「皆さんの祝福を受けて感謝状を授与されて感激しました。また、活動フィールドの提供と木曾森林管理署職員の皆さんにご指導ご協力いただいたことに感謝しています。今後微力ながらも活動を継続していきます。」との言葉をいただきました。  
今後木曾森林ボランティアのフィールド提供などを通じ、国民の森づくり活動の取り組みを支援したいと考えています。

木曾ヒノキ備林見学会を開催

「東濃署」十一月三十日から二日間、中津川市付知・加子母地域において、木曾ヒノキ備林や地域の木造施設等の見学会(一)神木の里で木曾ヒノキの文化と歴史を語ろまいか)が開催され、地元岐阜県や三重県、愛知県などの二十代から七十年代までの二十名が参加しました。

これは、伊勢神宮式年遷宮を契機に、古くから遷宮用材として用いられる木曾ヒノキをはじめ森林や木材との深い関わりの中で育まれてきた同地域の歴史や文化を、下流域や消費地の人たちによく知ってもらうと企画されたものです。(主催:裏木曾古事の森育成協議会 共催:東濃森林管理署)

一日目は東濃署での開会式のあと、明

治時代から続く歌舞伎舞台「明治座」、古刹「宗敦寺」と本堂の新築を受け持った宮大工工房、森林組合の木材市場などを見学しました。更に、夕食後には、アルコールも交えてリラックスした雰囲気の中、地元郷土史家ら五名が「裏木曾地域と御杣山の歴史」「木曾ヒノキ備林の管理」「三ッ緒切りの伝統を守る」「裏木曾三か村の山守」「木曾ヒノキと歴史的建造物」について話題提供を行い、夜遅くまで参加者と地元関係者の温かい交流が続きました。



「語ろまいか」枝澤 前東濃署長の話題提供

二日目は、加子母裏木曾国有林内の木曾ヒノキ備林を東濃署職員が案内し、平成十七年に行われた伊勢神宮の御用材(二)神木)伐採跡地、ヒノキとサワラの合体木、二代目大ヒノキなどを巡りました。

参加者の皆さんは、いずれの訪問先でも説明に熱心に耳を傾け、「ご神木のふるさとを訪問できてよかった。」「厳しい自然の中、地域の人々が助け合い、知恵を出し、匠の技をみがいて、伝統を伝え、守っておられることを感じました。」「森林内だけでなく実際の利用現場等まで見学でき木材の流れまで考えるきっかけとなりました。」「若い世代の人達にもっと宣伝して広めていくとよい。」などの感想が寄せられました。



裏木曾御用材伐採式跡の見学

主催者の三浦・協議会会長は、今後このような企画を継続し、地域づくりにつなげたいと語っておられました。

東濃署としても、木曾ヒノキ備林を次代に引き継いでいけるよう守り育てていくとともに、地域の取り組みに積極的に参加していきたいと考えています。



南木曾国有林と木曾駒ヶ岳

当該森林事務所が管轄する国有林野は、南木曾町の木曾川左岸にある南木曾国有林約三千五百ヘクタールです。この南木曾国有林は、標高二千六百六十九メートルの摺古木山（すりこぎやま）から西側斜面に位置し、地質は木曾川左岸特有の風化花崗岩地帯で浸食を受けやすく、また年間降水量は二千七百ミリ前後と比較的多いことが特徴といえます。



「南木曾支署 与川森林事務所」

大前 辰男 森林官

与川森林事務所は長野県の西南部、木曾谷の南端（岐阜県との県境）の町、南木曾町に所在しています。

この地質等ゆえに、過去には何度か山地災害が発生しました。しかし近年は、計画的な治山工事の実施により大規模な山地災害は発生していません。ひきつづき土砂崩れを防ぎ、豊かな森林を再生し、水源を守ることを心がけていくこととしています。



南木曾岳山頂の石碑

管内には、標高千六百七十九メートル・日本三百名山に選定されている南木曾岳がそびえ立っています。この南木曾岳は御嶽山・木曾駒ヶ岳とともに木曾の三岳に数えられています。登山道では、イワカガミ、シヨウジョウバカマ、シヤクナゲ、バイカオウレンなどの花が見られます。日帰り登山の山として地元の中学生の集団登山、東海地方などからも多くの登山者が訪れています。



事務所に隣接する三殿土場

当事務所の職員は森林官一名、森林技術員三名、非常勤職員一名の五名で、境界巡検・収穫調査・森林保全巡視などに従事し、また、人工林ヒノキ等に熊剥皮防止ワイリーテープを巻くなど、獣害防止対策も進めています。平均林地傾斜三十度以上の箇所が多く足場の悪いところもありますが、足場足元の確保に努め慎重に行動することに心がけています。昨年は、台風が多く発生した年でありました。それに伴う軽微な崩土等による林道の被害もありましたが、大事に至らず事業を遂行できました。これから厳寒期を迎えますが、冬期安全対策を遵守し無事故無災害で業務を遂行していきたいと思っています。